

GASTEC

No.3La

Instructions for use (IM003LaJ5)
 Ammonia Detector Tube
 取扱説明書
 アンモニア検知管

安全にお使いいただくために

使用前に、本書及び検知管式気体測定器の取扱説明書をお読みください。

△注意	けがの防止のために ・検知管の両端を折り取る時、目から遠ざけてください。 ・検知管の切り口、かけら、破損したときの充てん剤に素手で触れないでください。
△注記	性能維持、信頼性確保のために ・ガステックの気体採取器(100mL)を使って測定してください。 ・温度(検知管) 0～40℃の範囲で使用してください。 ・相対湿度20～90%の範囲で使用してください。20%より低い相対湿度では高めの誤差を生じます。 ・共存ガスの影響を受ける場合があります。干渉ガスの項を参照してください。 ・検知管の保管条件及び有効期限は箱に表示されています。

適用範囲

空気中及び工業ガス中のアンモニアの測定に使用してください。

仕様(性能向上のために仕様や外観などは変更することがあります。)

 <p>検知剤(紫色)</p>			
測定範囲	2.5～5ppm	5～100ppm	100～220ppm
吸引回数(n)	2回	1回(基準)	1/2回
吸引補正係数	1/2	1	2.2
吸引時間	約1分	約30秒	約30秒
検知限度	0.5ppm(2回吸引)		
変色	紫色 → 黄色		
反応原理	アンモニアは検知剤と中和反応して指示薬は黄色を呈する。		

環境の影響

温度：温度の影響を補正するため、読み値に以下の補正係数を掛けてください。

温度(℃)	0	5	10	15	20	25	30	35	40
温度補正係数	1.13	1.10	1.08	1.00	1.00	1.00	1.00	0.93	0.90

湿度：相対湿度20～90%の範囲で影響ありません。

気圧：1気圧(1013hPa)に対し±10%を超える場合、次式により補正してください。

読み値※(ppm) × [1013(hPa) ÷ 測定点の気圧(hPa)]

※補正が必要な場合は補正後の値

測定手順(検知管式気体測定器の取扱説明書を参照してください。)

- ① 両端の折れていない検知管を採取器につなぎ、採取器の気密性を確かめておく。
- ② チップブレーカで検知管の両端を折り取る。
- ③ 検知管の矢印(G▶)を採取器側に向け、採取器に取り付ける。
- ④ ハンドルを最後まで押し込み、ガイドマークを合わせる。
- ⑤ 一気に引き固定させる。その位置で約30秒待ち、吸引終了を確認する。

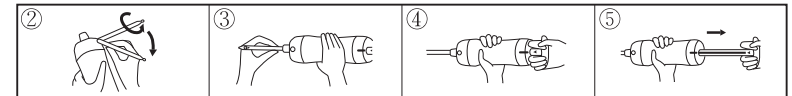
〈⑤までの操作で変色層が最低目盛の5ppmに達しなかった場合〉

⑤の操作の後、続けて④と⑤の操作を1回繰り返し、計2回(200mL)吸引する。(吸引補正係数は1/2)

〈⑤までの操作で変色層が最大目盛の100ppmを超えた場合〉

新しい検知管を用意して1/2回(50mL)吸引する。(吸引補正係数は2.2)

- ⑥ 吸引終了後、直に変色層の長さから目盛を読む。
- ⑦ 補正が必要な場合、温度補正係数、吸引補正係数の順に読み値にそれぞれの係数を掛ける。
- ⑧ 気圧の補正が必要な場合には、「環境の影響：気圧」の式にて補正する。



許容濃度：25ppm(2020年)

TLV-TWA：25ppm(2021年)

干渉ガス

ガス名	共存濃度	干渉	単独の場合
二酸化炭素	1%以上	-誤差(20%)	
ヒドラジン		+誤差	黄色に変色
アミン類	1/15倍以上	+誤差	5ppmで黄色に変色

この干渉ガスの表は、基本的に測定ガスと同等の濃度域において個々の共存ガスの干渉を表したものです。したがって表に記載のない物質または特別な条件の中には影響を及ぼす可能性があります。使用の際に影響があると思われる場合には弊社までお問い合わせください。

廃棄

この検知管には有害物質を含んでいません。一般廃棄物、もしくは産業廃棄物の“ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず”として廃棄が可能です。

保証とアフタサービス

- 万一、品質に不都合な点がありましたら、弊社にお問い合わせください。
 - ガス測定、品質に関する質問をお気軽にお問い合わせください。
- お問い合わせ先：株式会社 ガステック 営業本部
 〒252-1195 神奈川県綾瀬市深谷中八丁目8番6号
 TEL：0467(79)3911 FAX：0467(79)3979
 ホームページアドレス：https://www.gastec.co.jp/